



## 平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 日立物流

コード番号 9086 URL <http://www.hitachi-hb.co.jp/>

代表者 (役職名) 執行役社長

(氏名) 鈴木 登夫

問合せ先責任者 (役職名) 人事総務本部 課長

(氏名) 海老原 有里

TEL 03-5634-0307

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

### 1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	407,579	△1.6	14,550	△19.9	14,520	△18.1	7,456	△12.9
24年3月期第3四半期	414,232	51.7	18,174	44.7	17,727	41.4	8,564	39.0

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 9,503百万円 (38.1%) 24年3月期第3四半期 6,880百万円 (59.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	66.84	—
24年3月期第3四半期	76.77	76.58

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	358,189	167,971	45.5
24年3月期	365,013	164,640	42.9

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 163,025百万円 24年3月期 156,622百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	12.00	—	12.00	24.00
25年3月期	—	13.00	—		
25年3月期(予想)				12.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	550,000	△0.7	22,000	△4.9	22,000	△4.0	12,000	△4.5	107.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	111,776,714 株	24年3月期	111,776,714 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

25年3月期3Q	225,296 株	24年3月期	225,109 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	111,551,498 株	24年3月期3Q	111,551,783 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)連結経営成績に関する定性的情報	2
(2)連結財政状態に関する定性的情報	3
(3)連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1)四半期連結貸借対照表	5
(2)四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3)継続企業の前提に関する注記	9
(4)セグメント情報等	9
(5)株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループは、企業の物流業務をトータルサポートするB to B事業をコアビジネスとしております。物流市場において、スマートロジスティクスの推進で、競合他社との差異化を図り、グループシナジーを最大限高めることにより、物流業界を代表する「日本発グローバルB to B物流・7,500億円企業」の会社を目指します。

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、東日本大震災後の復興需要などを背景として、緩やかに回復が見られたものの、欧州債務危機の長期化、中国をはじめとした新興国経済の減速、米国経済の回復ペースの鈍化傾向など、世界経済の景気減速の影響を受け、輸出や生産が停滞し、厳しい状況で推移しました。

物流業界においても、国内貨物輸送量が前年度における大幅減の反動や比較的堅調な内需を背景に増加したものとみられましたが、景気減速や競争の激化などもあり、依然として厳しい経営環境が続きました。

このような状況下、当社グループは、スマートロジスティクスによる他社との差異化を推進し、システム物流事業における新規案件の受託が底堅く推移しましたが、世界経済の景気減速の影響を受け、既存顧客の取り扱い物量が減少したことにより、当第3四半期の売上高は、4,075億79百万円(前年同期比2%減)となりました。営業利益については、生産性向上・経費削減等に努めましたが、売上高の減少に加え、株式会社バンテックの顧客関連資産の減価償却費を計上したこと(※)などにより、145億50百万円(前年同期比20%減)、経常利益は、145億20百万円(前年同期比18%減)、四半期純利益は、74億56百万円(前年同期比13%減)となりました。

※前連結会計年度に連結子会社となった株式会社バンテックの取得原価の配分について、前第3四半期連結累計期間においては、入手可能な合理的な情報等に基づく暫定的な会計処理を行っていましたが、前第4四半期連結会計期間において取得原価の配分の完了に伴い顧客関連資産を識別するとともにのれんの額を修正しており、当第3四半期連結累計期間においては、当該修正後ののれんおよび顧客関連資産の償却費を計上しております。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の状況は以下のとおりとなりました。

国内物流では、幅広い顧客ニーズに適応した効率的なロジスティクスオペレーションを構築するとともに、全体最適できめ細かなサービスの提供を図りました。

当第3四半期連結累計期間においては、システム物流の受注拡大を図るなか、小売、生活、メディカル関連分野などを中心とした案件を立上げるなど、新規案件の受託は底堅く推移したものの、自動車関連などの既存顧客の取り扱い物量が減少し、前年同期を若干下回り推移しました。システム物流のさらなる拡大の取り組みとして、同一業界の複数の顧客を対象に効率的な運営が可能な共同保管・共同配送を実施する「業界プラットフォーム事業」の推進に積極的に取り組みました。その結果、昨年6月、8月、10月には、それぞれ埼玉県、佐賀県、大阪府に物流施設を開設するなど、事業拠点の整備に努めました。また、昨年4月に当社グループ内における運営体制の強化や効率化を図るべく、連結子会社の合併を実施しました。(当社の連結子会社である北海道日立物流サービス株式会社とダイレックス株式会社の合併、関東日立物流サービス株式会社とその子会社である昭島物流サービス株式会社の合併、関西日立物流サービス株式会社と中国日立物流サービス株式会社の合併を実施)

これらの結果、売上高は、2,840億8百万円(前年同期比2%減)、営業利益は、206億27百万円(前年同期比7%減)となりました。

国際物流では、グローバル化を進めるお客様の調達から販売までのワンストップサービスを目指し、最適で高品質な物流システムの確立に努めました。

当第3四半期連結累計期間においては、生活、電機・産業分野などを中心とした案件を立上げるなど、新規案件の受託が底堅く推移したものの、国内のフォワーディング事業は震災による航空貨物関連の緊急対応終了や世界経済の景気減速などの影響を受け、取り扱い物量が減少し、低調に推移しました。このようななか、グローバル連結経営強化を図るべく、M&Aにより加わったグループ会社とのPMI（経営統合によるシナジーの創出）に努めており、昨年7月には、当社と株式会社バンテックのフォワーディング事業を当社の子会社である日立物流シーアンドエア株式会社に集約し、株式会社日立物流バンテックフォワーディングとして新たにスタートしました。また、昨年9月には、インドにおいて、2007年11月に設立した現地法人の全ての事業をFLYJAC社（2010年4月より新規連結化）に移管しました。さらに、昨年11月にインドネシアに自動車関連の物流施設を開設し、昨年12月には、ミャンマーに新会社を設立するなど、グローバルネットワークの拡大に努めました。

これらの結果、売上高は、1,095億33百万円（前年同期比1%減）となりました。営業利益は、10億15百万円（前年同期比61%減）となりました。

その他では、自動車事業（整備・販売・リース他）や旅行代理店事業が底堅く推移しました。

これらの結果、売上高は、140億38百万円（前年同期比4%増）となりました。営業利益は、17億4百万円（前年同期比5%増）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末から68億24百万円減少し、3,581億89百万円となりました。流動資産は、現金及び預金が55億63百万円、受取手形及び売掛金が44億51百万円それぞれ減少したことなどにより、117億77百万円減少いたしました。固定資産は、土地が15億26百万円増加したことなどにより、49億53百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末から101億55百万円減少し、1,902億18百万円となりました。流動負債は、1年内返済予定の長期借入金が36億4百万円、短期借入金が18億91百万円それぞれ増加したものの、未払法人税等が49億64百万円、支払手形及び買掛金が39億42百万円それぞれ減少したことなどにより、73億90百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が43億95百万円減少したことなどにより、27億65百万円減少いたしました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末から33億31百万円増加し、1,679億71百万円となり、また自己資本比率は前連結会計年度末の42.9%から45.5%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、以下6つの項目を当社グループのスローガンに掲げ、さらなる事業拡大に取り組んでまいります。当第3四半期連結累計期間において、国内発着の航空貨物関連や自動車関連などの既存顧客の取り扱い物量が減少し、厳しい状況で推移したことや今後の物量回復が不透明であることなどを踏まえ、2012年5月9日に発表しました通期業績予想について、以下のとおり修正いたします。

また、平成25年3月期の期末配当予想につきましても、通期業績予想の修正を踏まえ、従来予想（2012年5月9日公表）の1株当たり13円を12円に修正させていただきます。これにより、年間配当金は25円となる予定です。

## [スローガン]

- ・2015年ビジョンの推進
  - ・グローバル連結経営体制の強化
  - ・新事業コンセプト「Smart Logistics」の展開による他社差異化
  - ・東日本大震災の復興対応
  - ・Hitachi Smart Transformation Project (※)を通じた日立グループの物流改革への貢献
  - ・成長戦略に見合う人財戦略の推進
- ※2011年4月に株式会社日立製作所が、グローバルに勝てるコスト競争力の実現に向け、日立グループを挙げたコスト構造改革を推進するために発足したプロジェクト。

## [通期の業績予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成24年5月9日発)	百万円 570,000	百万円 25,800	百万円 25,300	百万円 14,200	円 銭 127.30
今回修正予想 (B)	550,000	22,000	22,000	12,000	107.57
増減額 (B-A)	△20,000	△3,800	△3,300	△2,200	—
増減率 (%)	△3.5	△14.7	△13.0	△15.5	—
(参考) 前期実績 (平成24年3月期)	553,934	23,131	22,916	12,563	112.62

## 2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

## 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,889	12,326
受取手形及び売掛金	98,025	93,574
商品及び製品	503	561
仕掛品	167	280
原材料及び貯蔵品	323	416
預け金	19,723	15,975
その他	16,898	18,699
貸倒引当金	△699	△779
流動資産合計	152,829	141,052
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	58,741	58,997
土地	48,549	50,075
その他(純額)	24,046	27,837
有形固定資産合計	131,336	136,909
無形固定資産		
のれん	25,620	25,785
顧客関連資産	30,739	29,187
その他	6,350	6,183
無形固定資産合計	62,709	61,155
投資その他の資産		
投資その他の資産	18,344	19,167
貸倒引当金	△205	△94
投資その他の資産合計	18,139	19,073
固定資産合計	212,184	217,137
資産合計	365,013	358,189

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	44,206	40,264
短期借入金	9,378	11,269
1年内返済予定の長期借入金	2,381	5,985
未払法人税等	7,589	2,625
その他	35,396	31,417
流動負債合計	98,950	91,560
固定負債		
社債	2,000	2,000
長期借入金	56,385	51,990
退職給付引当金	14,615	15,889
役員退職慰労引当金	597	587
その他	27,826	28,192
固定負債合計	101,423	98,658
負債合計	200,373	190,218
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	16,803	16,803
資本剰余金	13,428	13,428
利益剰余金	130,618	135,415
自己株式	△178	△178
株主資本合計	160,671	165,468
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	60	4
繰延ヘッジ損益	△42	△53
為替換算調整勘定	△4,067	△2,394
その他の包括利益累計額合計	△4,049	△2,443
少数株主持分	8,018	4,946
純資産合計	164,640	167,971
負債純資産合計	365,013	358,189



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	414,232	407,579
売上原価	368,647	364,402
売上総利益	45,585	43,177
販売費及び一般管理費	27,411	28,627
営業利益	18,174	14,550
営業外収益		
受取利息	88	98
受取配当金	61	64
為替差益	—	249
持分法による投資利益	147	135
その他	238	270
営業外収益合計	534	816
営業外費用		
支払利息	636	614
為替差損	211	—
その他	134	232
営業外費用合計	981	846
経常利益	17,727	14,520
特別利益		
固定資産売却益	66	149
段階取得に係る差益	—	45
保険金確定差益	270	—
災害損失引当金戻入額	172	—
投資有価証券売却益	19	—
その他	37	11
特別利益合計	564	205
特別損失		
固定資産売却損	5	4
固定資産除却損	197	182
持分変動損失	21	14
事業拠点再構築費用	133	—
投資有価証券評価損	31	—
その他	59	18
特別損失合計	446	218
税金等調整前四半期純利益	17,845	14,507
法人税等	8,900	6,803
少数株主損益調整前四半期純利益	8,945	7,704
少数株主利益	381	248
四半期純利益	8,564	7,456

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,945	7,704
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	△56
繰延ヘッジ損益	△19	△11
為替換算調整勘定	△2,008	1,780
持分法適用会社に対する持分相当額	△41	86
その他の包括利益合計	△2,065	1,799
四半期包括利益	6,880	9,503
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,605	9,062
少数株主に係る四半期包括利益	275	441

(3) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損 益計算書計上 額(注3)
	国内物流	国際物流	計				
売上高							
外部顧客への売上高	289,606	111,069	400,675	13,557	414,232	—	414,232
セグメント間の内部売上高 又は振替高	105	3	108	5,991	6,099	△6,099	—
計	289,711	111,072	400,783	19,548	420,331	△6,099	414,232
セグメント利益	22,199	2,595	24,794	1,630	26,424	△8,250	18,174

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、情報システム開発、自動車販売・整備、旅行代理店業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△8,250百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

従来より報告セグメントの資産については、執行役会において事業セグメントの資産情報が利用されていないため記載しておりませんが、当社は平成23年4月5日にEternity Grand Logistics Public Company Limitedを、平成23年4月26日に株式会社バンテックを当社の連結子会社としていることから、前連結会計年度の末日に比して、当第3四半期連結会計期間の資産の金額が著しく変動しております。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する情報

当社は平成23年4月26日に株式会社バンテックを当社の連結子会社としており、当該事象によるのれんが増加しております。当該のれんについては、複数の報告セグメントに関わるものであり、報告セグメントに配分しておりませんが、関連する費用については合理的な基準に基づき各報告セグメントに配分しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「国際物流」セグメントにおいて、当社は平成23年4月5日にEternity Grand Logistics Public Company Limitedを当社の連結子会社としております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては1,078百万円であります。

また、当社は平成23年4月26日に株式会社バンテックを当社の連結子会社としております。なお、当該事象によるのれんの増加額は29,301百万円ですが、複数の報告セグメントに関わるのれんであるため、報告セグメントには配分しておりません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損 益計算書計上 額(注3)
	国内物流	国際物流	計				
売上高							
外部顧客への売上高	284,008	109,533	393,541	14,038	407,579	—	407,579
セグメント間の内部売上高 又は振替高	274	6	280	6,913	7,193	△7,193	—
計	284,282	109,539	393,821	20,951	414,772	△7,193	407,579
セグメント利益	20,627	1,015	21,642	1,704	23,346	△8,796	14,550

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、情報システム開発、自動車販売・整備、旅行代理店業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△8,796百万円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当社は平成24年4月25日に完全子会社化を目的として連結子会社である株式会社バンテックの株式を追加取得しております。当該事象によるのれんの増加額は1,189百万円であります。当該のれんについては、複数の報告セグメントに関わるのれんであるため報告セグメントに配分しておりませんが、関連する費用については合理的な基準に基づき各報告セグメントに配分しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。